# おすすめ絵本

## ～おきたまセレクション・ベスト版～

置賜地区公共図書館(室)連絡協議会

# おすすめ絵本

## ～おきたまセレクション・ベスト版～

2013 年よりスタートした『おすすめ絵本～おきたまセレクション～』は、置賜地区の図書館（室）に勤める職員が集まり、現在読み聞かせをしている方や、これから始めようと考えている方に向けて、絵本や読み物を紹介してきました。

本書は、これまで紹介してきた 968 冊から 88 冊の絵本を選び抜いた「ベスト」版です。

テーマごとに紹介している絵本には、対象年齢を付けて掲載していますので、ぜひ選ぶ際の参考にしていただければ幸いです。

| ページ | テーマ |
|---|---|
| 2 | 定番絵本 |
| 6 | 春の絵本 |
| 7 | 夏の絵本 |
| 8 | 秋の絵本 |
| 9 | 冬の絵本 |
| 10 | 昔話・民話・童話の絵本 |
| 12 | どうぶつの絵本 |
| 14 | 家族 |
| 16 | たべもの |
| 18 | ことば |
| 19 | 写真絵本 |
| 20 | その他 |
| 24 | 置賜地区の図書館(室)のご案内 |

## 定番絵本

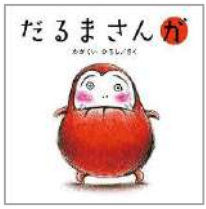
### 『いないいないばあ』〈乳児〉

文:松谷 みよ子　絵:瀬川 康男　出版:童心社 1967 年

「いないいない…ばあ」ほら猫さんが、くまさんも…子どもを引きつけるイラストと「いないいないばあ」のリズムが楽しい絵本です。長く子どもの心を引き付け、今ではミリオンセラーの絵本として親しまれています。

### 『だるまさんが』〈乳児〉

作:かがくい ひろし　出版:ブロンズ新社 2008 年




「だ・る・ま・さ・ん・が」の言葉の後にページをめくると…どてっと転んだだるまさんが顔を出します。ページをめくるたびに、赤ちゃんと一緒に笑ってしまうような楽しいイラストに出会えます。シリーズもあります。

### 『ねないこだれだ』〈乳児〉

作・絵:せな けいこ　出版:福音館書店 1969 年

時計は9時になりました。夜中遅くまで起きている子はいないですか？夜はおばけの時間です。はやく寝ないとおばけの世界に連れて行かれてしまいますよ。おやすみ前にぜひ読んで欲しい、ちょっと怖い絵本です。

### 『もこもこもこ』〈乳児〉 作:谷川 俊太郎　絵:元永 定正

出版:文研出版 1977 年

しーん…と静かな所に「もこ」と小さなふくらみが「もこもこ」と大きくなって、はじけたと思ったら、「もこ」とまたふくらんで…。読み終わった後にもう一度はじめから読みたくなる、そんな魅力があります。

## 『からすのパンやさん』〈幼児〉

作・絵:加古 里子　出版:偕成社 1973 年

おいしいパンを焼くからすのパン屋さんがあります。かえるパンやすいかパンなど、いろいろなパンを作ります。たくさんのパンやからすが登場するので、形や表情も楽しめます。

## 『ぐりとぐら』〈幼児〉

作:中川 李枝子　絵:大村 百合子　出版:福音館書店 1967 年

なかよしの野ねずみ、ぼくらの名前はぐりとぐら。ある日森で見つけた大きなたまごでカステラをつくります。森中の動物たちが集まってきてこのカステラを食べました。50年以上にわたって愛され受け継がれる名作です。

## 『すてきな三にんぐみ』〈幼児〉

作:トミー・アンゲラー　訳:今江 祥智　出版:偕成社 1969 年

黒いマントに黒い帽子のこわーい泥棒三人組。馬車を襲っては財宝をため込んでいたけれど、ある夜、みなしごのステファニーを連れ去ってから、三人組は…。なんとも素敵なハッピーエンド。

## 『せんたくかあちゃん』〈幼児〉

作・絵:さとう わきこ　出版:福音館書店 1982 年

天気の良い日、かあちゃんは家中のせんたくものをたらいにほうりこんで、ごしごし、きれいにせんたくをします。せんたくものをほしているとそこに落ちてきたのは、うすよごれたかみなりさま。さあ、かあちゃんはかみなりさまもせんたくしてきれいにしますよ。

## 定番絵本

### 『スイミー　～ちいさなかしこいさかなのはなし～』〈小低〉

作:レオ＝レオニ　訳:谷川 俊太郎　出版:好学社　1969 年

大きな魚に仲間を食べられてしまい、ひとりぼっちになったスイミーはたくさんの小さな赤い魚たちに出会いますが、そこへ大きな魚がやってきて…。仲間と協力することの大切さを教えてもらえます。

### 『どうぞのいす』〈小低〉

作:香山 美子　絵:柿本 幸造　出版:ひさかたチャイルド　1981 年

うさぎさんが小さないすを作って、「どうぞのいす」と書いた立て札と一緒に木の下に置きました。すると、次々と動物たちがやってきて、持ってきたものを置いていきます。「どうぞのいす」を通して、相手を思いやる温かな気持ちがどんどんつながっていくお話です。

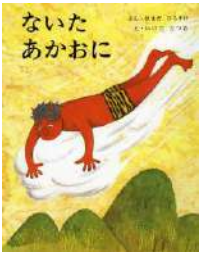
### 『ともだちや』〈小低〉

作:内田 麟太郎　絵:降矢 なな　出版:偕成社　1998 年

キツネは1時間100円で友だちになってあげる「ともだちや」をはじめます。友だちってむりやりにつくるものではないはず。友だちってなんでしょうか。キツネと一緒に考えてみましょう。

### 『ないたあかおに』〈小低〉

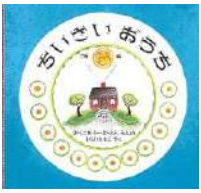
文:浜田　廣介　絵:池田　龍雄　出版:偕成社　1965 年




人間と仲良くなりたい赤おにのために、青おには悪者を演じます。人間と仲良くなれた赤おには、青おににお礼を言うために家に向かいますが、青おには手紙を残し、いなくなっていました。その手紙には…。高畠町出身の浜田廣介の代表的な作品です。

## 『ちいさいおうち』〈小高〉

文・絵:バージニア・リー・バートン　訳:石井 桃子
出版:岩波書店　2019 年改版（1954 年初版）




昔々、静かな田舎に小さい家がたっていました。周りに工場ができ、にぎやかになっていくにつれ、小さい家は白いヒナギクの花が咲き乱れる田舎の景色を懐かしく思うのでした…。心にじんわりとしみるお話です。

## 『100万回生きたねこ』〈小高〉 作・絵:佐野 洋子　出版:講談社　1977 年

100万回も死んで100万回も生きたねこがいました。100万人の人がこのねこを可愛がりましたが、ねこはどの飼い主も大嫌いでした。ある時、ねこは1匹の白いうつくしいねこと出会います。そして…。100万回死んでも悲しくなかったねこは初めて愛することを知り、初めて涙を流すのでした。

## 『モチモチの木』〈小高〉

作:斎藤 隆介　絵:滝平 二郎　出版:岩崎書店　1971 年

夜中にひとりでおしっこも行けない臆病者の豆太。いつもじさまを起こして一緒に行ってもらいます。ある日の真夜中、突然じさまが苦しみ出して…。大好きなじさまを助けようと勇気を振り絞り、豆太は家から飛び出します。

## 『ルリユールおじさん』〈小高〉 作:いせ ひでこ　出版:講談社　2011 年

大切にしてきた植物図鑑が壊れてしまい、途方に暮れるソフィー。パリの街を歩き回り本を直してくれる「ルリユールおじさん」をやっと見つけ出します。ソフィーの本は直るのでしょうか…。本への愛情と、時代を超えてつながる職人の誇りを描いた絵本。

# 春

## 『いちご』〈乳児〉

作:平山 和子　出版:福音館書店　1989 年

花が咲いて実がなって。真っ赤ないちごはもう甘いかな？「おまちどおさま。さあ、どうぞ」いちごが答えてくれました。つやつやの真っ赤ないちごを見ると、思わず食べたくなってしまいます。お子さんと一緒に食べるまねをしながら読むのも楽しそうですね。

## 『そらまめくんのぼくのいちにち』〈幼児〉

作・絵:なかや みわ　出版:小学館　2006 年

ふわふわのベッドで目が覚めたら、たんぽぽばたけへお出掛けです。そらまめくんは白いわたげを使ってふわふわベッドをつくりました。そしてお友達を招待しようとしましたが…。そらまめくんとお友達の楽しい一日です。

## 『くものすおやぶんとりものちょう』〈小低〉

作:秋山 あゆ子　出版:福音館書店　2005 年

くもの巣親分は今日も虫の町の見回り。明日は待ちに待った春祭りです。そこに届いた「かくればね」からの盗みの予告状！さてさて、親分は春祭りのお菓子を守ることができるのでしょうか？「かくればね」の正体とは？虫と時代劇という異色のタッグにご注目！

## 『桜守のはなし』〈小高〉

作:佐野 藤右衛門　出版:講談社　2012 年

京都で桜守の仕事をしている佐野藤右衛門さん。桜が散り、芽が出てからが、1年間の仕事のはじまりです。桜は、守り育て継いでいかないと絶えてしまうのだということを、春夏秋冬に生きる桜の姿とともに教えてくれます。

## 『こぐまちゃんのみずあそび』〈乳児〉

著:森 比左志・わだ よしおみ・若山 憲 出版:こぐま社 1971 年

花に水をあげていたこぐまちゃん。だんだん楽しくなって、きんぎょさんにも、ありさんにも水をあげてしまいました。そこに、しろくまちゃんがホースを持ってきて…。2人の楽しい水遊びはどんどんエスカレート！さあ、どんなことになるのやら。

## 『わにわにのおでかけ』〈幼児〉

文:小風 さち 絵:山口 マオ 出版:福音館書店 2007 年

部屋の電気も消えたのに眠れない、わにわに。寝床を出てみると、おや、みんなどこかへ行くようです。わにわにがついていった先は、おまつりでした。おまつりを楽しんでいるわにわにがとてもかわいらしく描かれています。

## 『あさがお』〈小低〉 文・絵:荒井 真紀 出版:金の星社 2011 年

夏になると、ピンク、紫、青など鮮やかな色合いで私たちの目を楽しませてくれるあさがお。春に種をまくところから、夏に美しい花を咲かせ、秋に種ができるところまで。あさがおの一生が、緻密で美しい絵とともに描かれています。

## 『ちいちゃんのかげおくり』〈小高〉

作:あまん きみこ 絵:上野 紀子 出版:あかね書房 1982 年

お父さんと空を見上げて楽しんだかげおくり。その空から、今は恐ろしい爆弾が落ちてきます。空襲で家族とはぐれたちいちゃんが、ひとり防空壕で待っていると、「かげおくりのよくできそうな空だなあ」という出征したお父さんの声がふってきて…。

# 秋

## 『おいもさんがね…』〈乳児〉

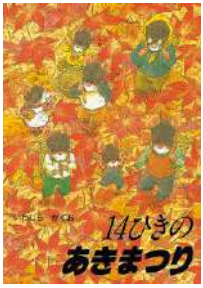
作・絵：とよた　かずひこ　出版：童心社　2012 年

　おいもさんが土の中から出てきました。つるを引っ張って、よいしょよいしょと他の仲間も起こします。ところが勢い余ってすっぽーん、ごろごろ、冷たい水の中に落ちてしまいました。ぶるぶる寒いおいもさん達に「しんぱいごむよう！」とやって来たのは…。

## 『14ひきのあきまつり』〈幼児〉

作：いわむら　かずお　出版：童心社　1992 年

　ねずみの一家、14ひきのシリーズ。見事に描かれた秋の風景の中、子どもたちのかくれんぼが始まります。残った1人を探す子どもたちは、やがて秋祭りの渦の中へ…。最後は森のめぐみに感謝しながら、家族みんなでごちそうをいただきます。




## 『もりのかくれんぼう』〈小低〉

作：末吉　暁子　絵：林　明子　出版：偕成社　1978 年

　けいこは、お兄ちゃんを追いかけていけがきを通ると、見たこともない森に出ました。そこで、不思議な男の子と森の動物たちと、かくれんぼをするのですが…。絵にかくれた動物を見つけ出すわくわく感を物語と一緒に楽しめます。

## 『あきにであったおともだち』〈小高〉

作・絵：亀岡　亜希子　出版：文溪堂　2007 年

　秋の森で女の子のハーミーちゃんに出会ったオコジョのタッチィ。いっしょにお茶会を開くための準備を始めますが、彼女が招待したいといったのは同じ学校の男の子。怒ってハーミーちゃんのもとからいなくなってしまったタッチィですが…。

## 『おしくら・まんじゅう』〈乳児〉

作:かがくい ひろし 出版:ブロンズ新社 2009 年

紅白のおまんじゅうが、いろんな相手とおしくらまんじゅうをします。おまんじゅう、こんにゃく、納豆、それから…。相手を泣かせたり、ねばったり、最後はどうなってしまうのでしょう。「ぎゅー」「びろーん」「そーれ」「ヒュー」、リズミカルなことばが楽しさを増しています。

## 『ふゆめがっしょうだん』〈幼児〉

写真:冨成 忠夫・茂木 透 文:長 新太 出版:福音館書店 1990 年

冬の木の芽が、人の顔に見えることありませんか？それは、葉っぱが落ちた跡が不思議な模様になっているからです。この本は、そんな顔をたくさんあつめた写真集です。笑っていたり、動物に似ていたり、愉快な顔がたくさんありますよ。

## 『サンタクロースってほんとにいるの？』〈小低〉

文:てるおか いつこ 絵:すぎうら はんも 出版:福音館書店 1982 年

サンタって本当にいるの？なぜ夜中にくるの？みんなのほしい物がわかるのはどうして？子どもの疑問に、大人たちはユーモアたっぷりに答えていきます。現実の世界と想像の世界を、同じページに盛り込んだ構成がおもしろい絵本です。

## 『雪の結晶ノート』〈小高〉 作:マーク・カッシーノ 作:ジョン・ネルソン

訳:千葉 茂樹 出版:あすなろ書房 2009 年

さむいさむーい冬。雪はどうやって生まれるのでしょうか？小さかったちりが、きれいな雪の結晶になるまでの過程がよく分かります。また、雪の結晶はどれひとつ同じものはありません。自然が織りなすさまざまな形を見てみませんか？

# 昔話・民話・童話の絵本

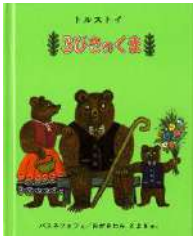
## 『おおかみと七ひきのこやぎ』〈幼児〉

（原作：グリム） 絵：フェリクス・ホフマン 訳：せた ていじ 出版：福音館書店 1967 年

おかあさんやぎは、こやぎたちに「おおかみに気をつけなさい」と言って出かけます。注意したことは「しわがれ声」と「黒い足」。でも、おおかみは声を変え、足の色も塗り変えてやってきます。おかあさんだと信じ込んだこやぎたちが、ついに扉を開けると…。

## 『3びきのくま』〈幼児〉 文：トルストイ 絵：バスネツォフ

訳：おがさわら とよき 出版：福音館書店 1962 年




森へ遊びに来た女の子は、小さな家を見つけました。中に入ると、食堂にはスープの入った3つのお椀がありました。一番小さいお椀のスープを飲んでしまった女の子は、もう一つの部屋へ入って、一番小さいベッドで眠ってしまいました。するとそこへ…。

## 『ももたろう』〈幼児〉 文：松居 直 画：赤羽 末吉 出版：福音館書店 1965 年

おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくにいきました。名作昔ばなし『ももたろう』の、はじまりはじまりー！桃から生まれた桃太郎が、きびだんごをやった犬、猿、雉と一緒に、鬼が島へ鬼退治にいく物語を、独特のタッチで優しく描いています。

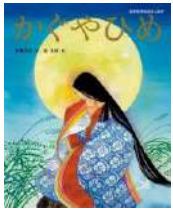
## 『王さまと九人のきょうだい』〈小低〉

訳：君島 久子 絵：赤羽 末吉 出版：岩波書店 1969 年

白い髪の老人のお告げにより、老夫婦のもとに九人の赤ちゃんが生まれます。兄弟は付けられた名前のとおり、それぞれに違う不思議な力を持っていました。悪い王様の難題にも、入れ代わり立ち代わり出かけて行って…。九人兄弟が活躍する中国民話です。

## 『かぐやひめ』〈小低〉

文:舟崎 克彦　絵:金 斗鉉　出版:小学館　2009 年




　光りかがやく竹から生まれたかぐや姫。美しくなったかぐや姫は、5人の男たちから結婚を申し込まれます。ところが、それぞれに無理難題を出して、次々と断ってしまいます。そして、ある十五夜の夜に…。日本で最も古く創られた物語と言われています。

## 『ブレーメンのおんがくたい』〈小低〉（原作:グリム）

絵:ハンス・フィッシャー　訳:せた ていじ　出版:福音館書店　1964 年

　年老いて飼い主のために働けなくなった、ろば、犬、猫、おんどりの4匹が、音楽隊に入ろうとブレーメンを目指します。森の中で1軒の家を見つけますが、そこは泥棒のすみか。泥棒たちは宴会の真っ最中です。そこで知恵を出し合い、4匹がとった行動とは？

## 『うさぎとかめ』〈小高〉（原作:イソップ）作:ジェリー・ピンクニー

訳:さくま ゆみこ　出版:光村教育図書　2013 年

　ご存知！兎と亀の駆けくらべ。まるで本物のように描かれた動物たちの動きは迫力満点です。ほとんど文章らしい文章が無く、絵だけでストーリーが進んでいきます。絵を見ながら自由にセリフを想像して読むのも楽しいですよ。

## 『雪女』〈小高〉 作:小泉 八雲　訳:平井 呈一　絵:伊勢 英子

出版:偕成社　2000 年

　ある日、木こりの茂作と巳之吉は川を渡れず、渡し小屋に泊まることに。すると、夜中に雪女が入ってきて年老いた茂作を殺してしまいます。助かった若い巳之吉は雪女に「誰にも言うな」と口止めされますが…。幻想的な絵が、より一層もの悲しいお話にしています。

# どうぶつ

## 『おふとんかけて!』〈乳児〉作:D・ハコエン＆S・シャーシュミット

訳:石津 ちひろ 出版:BL 出版 2011 年

「そろそろ、おやすみの時間。おふとんかけてほしいこ、だあれ？」ブタさんに、シマウマさんに、ゾウさん！ベッドへ横になった動物に一枚ずつおふとんをかけていくしかけ絵本です。最後におふとんかけてほしい子は誰かな？おやすみ前の一冊にどうぞ。

## 『どうぶつのおやこ』〈乳児〉

画:薮内 正幸 出版:福音館書店 1966 年

ネコやイヌなど身近な動物に、ゾウやキリンなど動物園でしか見られない動物まで、いろんな動物の親子が愛情たっぷりに描かれています。この絵本には言葉がありません。お子さんと一緒に、親子でどんなおしゃべりをしているのかを想像してみてください。

## 『11ぴきのねこ』〈幼児〉

著:馬場 のぼる 出版:こぐま社 1967 年

11ぴきののらねこ達はいつもおなかがぺこぺこでした。そんなねこ達に、じいさんねこは広い湖に住んでいる大きな魚の話を教えました。さっそく大きな魚をつかまえるため、湖に出かけたねこ達。大きな魚をつかまえることができるのでしょうか。

## 『ひとまねこざる』〈幼児〉文・絵:H. A. レイ 訳:光吉 夏弥

出版:岩波書店 1998 年改版（1954 年初版）

動物園に住むさるのジョージはとても知りたがり屋。ある時、外の世界を知りたくて、動物園から抜け出してしまいます。コックさんのお手伝いや、そうじやさんのガラスふきなど、次々と仕事を任され、ついには映画デビューまで果たしてしまいます。

## 『十二支のおはなし』〈小低〉

著:内田 麟太郎　画:山本 孝　出版:岩崎書店　2002 年

　神様の言いつけ通りに新年のあいさつにやってきた動物たち。でも、日にちを忘れてしまったねこは、ねずみにだまされてしまい…。インパクトのある絵とリズミカルな文章が楽しい、十二支のはじまりのお話です。

## 『ろくべえまってろよ』〈小低〉

作:灰谷 健次郎　絵:長 新太　出版:文研出版　1975 年

　犬のろくべえが穴に落ちてしまいました。早く助けてあげないと死んでしまうかもしれない！1年生の子どもたちが必死に、あの手この手で助けようとします。子どもの頃のまっすぐな気持ちを思い出させてくれる絵本です。

## 『しんでくれた』〈小高〉

詩:谷川 俊太郎　絵:塚本 やすし

出版:佼成出版社　2014 年

　牛や豚が「しんでくれた」から、私たちはその肉を食べることができます。分かっているけれど言葉にすると、ぐっと胸に突き刺さるものがあります。シンプルな文章が、命のつながりや大切さを語りかけてきます。

## 『わたしはあかねこ』〈小高〉

作:サトシン　絵:西村 敏雄　出版:文溪堂　2011 年

　しろとくろの両親から産まれた5匹のねこたち。その中に、1匹だけあかいねこがいました。あかねこは自分の色を気に入っていましたが、みんなは同情ばかり。自分を認めてもらえないあかねこは悲しみ、家を出ます。そして、出会ったのは…。

# 家族

## 『ぎゅっ』〈乳児〉

作・絵:ジェズ・オールバラ　出版:徳間書店　2000 年

　ジャングルをごきげんでおさんぽ中のジョジョ。森のみんなが次々と「ぎゅっ」としているのを見て、あれー？泣き出しちゃった。そこへママが来て「ぎゅっ」。そうかママが恋しくなったんだね。思わず子どもを「ぎゅっ」としたくなる…、そんな絵本です。

## 『まてまてまて』〈乳児〉

案:こばやし　えみこ　絵:ましま　せつこ　出版:こぐま社　2005 年

　小さな子どもたちは、追いかけっこが大好き！元気にハイハイで逃げる子を仲良しのぬいぐるみたちが「まてまてまて」と追いかけます。うさぎさん、ひつじさん、くまさんとだんだん増えていって…。楽しい追いかけっこのゴールはおかあさん。さあ、みんなねんね。

## 『あなたがとってもかわいい』〈幼児〉

作・絵:みやにし　たつや　出版:金の星社　2008 年

　にこにこ笑っている顔、あーんあーん泣いている顔、真っ赤になってうんちしている顔だって、赤ちゃんの顔はぜーんぶかわいい。今よりずっと大きくなっても、かわいいのは変わりません。親が子どもを思う気持ちは、ずっといっしょですよね。

## 『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』〈幼児〉

作:長谷川　義史　出版:BL出版　2000 年

　「おじいちゃんのおとうさんてどんなひと？」5歳のぼくの質問に、おじいちゃんはおじいちゃんのおとうさんとおじいちゃんを教えてくれました。すると、ぼくの興味は、おじいちゃんのおじいちゃんへ、そのまたおじいちゃんへとどんどんさかのぼっていきます。

## 『おかあさんがおかあさんになった日』〈小低〉

作:長野　ヒデ子　出版:童心社　1993 年

　初めて赤ちゃんが生まれた日が、お母さんがお母さんになった日。お母さんは赤ちゃんが生まれるのを心待ちにしながら、病院で一日を過ごします。元気に生まれて、元気に育ってほしい。そんなお母さんの願いが込められた心温まる絵本です。

## 『パパのしごとはわるものです』〈小低〉

作:板橋　雅弘　絵:吉田　尚令　出版:岩崎書店　2011 年

　宿題で「お父さんの仕事」を調べることになったぼくは、お父さんの後を追って体育館に忍び込みました。中では正義の味方ドラゴン・ジョージと悪者のゴキブリマスクが闘っていました。見ているうちにゴキブリマスクがお父さんだと気付いてしまったぼくは…？

## 『ちいさなあなたへ』〈小高〉 文:アリスン・マギー　絵:ピーター・レイノルズ

　訳:なかがわ　ちひろ　出版:主婦の友社　2008 年

　初めてわが子を抱いた日、その小さな指を数え、一本一本にキスをしました。赤ちゃんからこどもになり、やがて家を離れてお母さんになって…。温かいまなざしで娘の将来を見つめ、その行く末を優しい言葉と絵で綴っていきます。全編に母の愛が感じられます。

## 『つみきのいえ』〈小高〉

文:平田　研也　絵:加藤　久仁生　出版:白泉社　2008 年

　この町では、海面がどんどんあがるため家を上へと建て増すしかありません。まるで「つみきのようないえ」に一人住んでいるおじいさん。ある日、落とした大工道具を探しに下の家へ行くと、おばあさんや子どもたちとの切なくも温かな思い出がよみがえります。

# たべもの

## 『おべんとうバス』〈乳児〉

作・絵：真珠 まりこ　出版：ひさかたチャイルド　2006 年

「バスにのってください」、「ハンバーグくーん」、「はーい」。お弁当のたべものたちが、次々にお弁当バスに乗りこんできます。「まってー」、「あ、みかんちゃん、はやく、はやく」、「まにあってよかったね」。みんなそろってしゅっぱーつ！

## 『やさいさん』〈乳児〉

作・絵：tupera tupera　出版：Gakken　2010 年

「やさいさんやさいさんだあれ」このかけ声で次のページのしかけをめくると、土の中からいろんな野菜が「すっぽーん」と飛び出してきます。表情豊かな野菜たちがとってもおもしろい！つぎの野菜は何かな。当てっこしながら楽しく読めるしかけ絵本です。

## 『ノラネコぐんだんおすしやさん』〈幼児〉

著：工藤 ノリコ　出版：白泉社　2015 年

ワンワンちゃんのお寿司屋さんをのぞくノラネコぐんだん。お寿司が食べたくて、なんと、回転寿司のレールを森の中へとつなげてしまいます。あの手この手の愉快な手段を想いつくノラネコぐんだんですが、ワンワンちゃんにしかられて、仕事を手伝うはめに…。

## 『ハンバーグハンバーグ』〈幼児〉

作：武田 美穂　出版：ほるぷ出版　2009 年

ハンバーグ、ハンバーグ。リズミカルにくり返される言葉だけでおいしそう。パンパンパンと空気をぬいて、ジュージューと焼いていく。レシピのようにページが展開し、たまらなくおいしそうなハンバーグができあがります。最後はいっしょに「いっただきまーす！」

## 『おしゃべりなたまごやき』〈小低〉

作:寺村 輝夫 画:長 新太 出版:福音館書店 1972 年

卵が大好きな王さま。晩ご飯に目玉焼きが食べたいとコックに伝えますが、にわとりを小屋から逃がしてしまい大騒ぎになってしまいます。小屋の鍵を捨てるところを一羽のめんどりに見られ、そのめんどりが生んだ卵が食卓の目玉焼きになって…。

## 『給食番長』〈小低〉 作:よしなが こうたく

出版:好学社 2014 年改版（長崎出版 2007 年初版）

わんぱく小学校 1 年 2 組の給食の時間は、番長を中心にいつも大騒ぎ。教室のみんなは、入学以来一度も給食をちゃんと食べたことがありません。給食のおばちゃんたちは「つくってものこすからもうつくりません」と怒ってしまいました。ところが番長たちは…。

## 『ほしじいたけほしばあたけ』〈小高〉 作:石川 基子 出版:講談社 2015 年

きのこむらのはずれに住んでいる、ほしじいたけとほしばあたけ。水に濡れることが嫌いなおじいさんとおばあさんです。ある日、同じ村に住むタマゴタケくんが崖の下に落ちてしまい…。ほしじいたけとほしばあたけが大変身して活躍する姿をお楽しみください。

## 『りんごかもしれない』〈小高〉

作:ヨシタケ シンスケ 出版:ブロンズ新社 2013 年

ある日、テーブルの上に置いてあったりんごを見つけたぼくは考えました。もしかしたら、これはりんごじゃないかもしれない。もしかしたら、大きなサクランボの一部かもしれない。あるいは、剥いても剥いても皮かもしれない。次々といろんな発想が生まれていきます。

# ことば

## 『さよならさんかくまたきてしかく』〈乳児〉

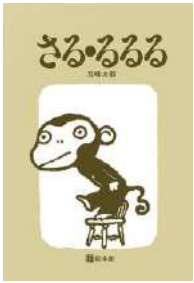
文:松谷 みよ子　絵:上野 紀子　出版:偕成社　1979 年

「さよならさんかく」で始まるわらべうたの絵本です。「しかくはおふとん、おふとんはねんね」と、次々と意外な展開になっていきます。言葉の響きを楽しみながら、リズムよく読んであげてください。寝る前の読み聞かせにもおすすめです。

## 『さる・るるる』〈幼児〉

作:五味 太郎　出版:絵本館　1979 年

この本は、「くる」「みる」など、2文字だけの動詞で文末に「る」の付く言葉だけでできています。「さる・くる」「さる・みる」など、さるの行動を表現しています。韻を踏む文章を、お子さんといっしょに読むのもいいですね。とぼけた感じのさるの表情も愛らしいです。




## 『せきとりしりとり』〈小低〉

作:サトシン　絵:高畠 那生　出版:文溪堂　2011 年

関取の一日をしりとりで紹介しています。「せきとり、けいこにせいをだす」「すごいなげわざ、バッチリきまる」「るんるんきぶんで、いいちょうし」稽古して、ちゃんこを食べて、今日の対戦相手は…。しりとり絵本の決定版です。

## 『じゅげむ』〈小高〉

作:川端 誠　出版:クレヨンハウス　1998 年

和尚さんに子どもの名づけを頼んだ父親。けれども1つに決められず、めでたい言葉をつなげて「じゅげむじゅげむごこうのすりきれ…」と、長い長い名前を男の子につけてしまいます。あまりにも長い名前のため起こるおかしさ。有名な落語のお話です。

## 『ぽんちんぱん』〈乳児〉 作:柿木原 政広 出版:福音館書店 2014 年

「ぱんぱんしょくぱんぽんちんぱん」と歌のようにリズミカルな言葉でいろんなパンが登場します。ロールパン、ドーナツやあんぱんをちぎって作ったいろんなお顔が出てきます。どんなお顔かな？絵本をみたら、パンが食べたくなっちゃうかな。

## 『このあいだになにがあった？』〈幼児〉

作:佐藤雅彦＋ユーフラテス デザイン:山本晃士ロバート
出版:福音館書店 2017 年

「毛がもこもこの羊」と「毛が短い羊」2つの写真の間が空白となっています。写真の変化から、どんなことがあったのかみんなで推理してみましょう。オタマジャクシ、カメ、ヒトデにも変化が…。ページをめくって答えあわせをしましょう。

## 『クラゲすいぞくかん』〈小低〉

写真:村上 龍男 文:なかの ひろみ 出版:ほるぷ出版 2015 年

クラゲ展示数世界一の加茂水族館の元館長村上龍男さんが自慢のクラゲ達を紹介します。大きなクラゲや小さなクラゲ、「よみがえりの魔法」を使える珍しいクラゲまで、64種類のクラゲを美しい写真で楽しめます。お気に入りのクラゲが見つかるかも？

## 『さがしています』〈小高〉

作:アーサー・ビナード 写真:岡倉 禎志 出版:童心社 2012 年

1945年8月6日のヒロシマで、時が止まってしまった「ものたち」。8時15分の時を刻み続ける時計に、くろこげになった革靴。広島平和記念資料館に所蔵されているピカドン(原子爆弾)を体験した「もの」が語り部となり、持ち主の暮らしやエピソードを伝えます。

## その他

### 『ふるふるフルーツ』〈乳児〉

文:ひがし なおこ 絵:はらぺこめがね 出版:Gakken 2018 年

しましますいかさん、ひょろりんバナナさん…。しかけをめくると、フルーツたちが集まっておいしい何かに変身します。みずみずしいイラストが目に鮮やかで、「すぱあん」とフルーツを切る音や、「ぷるぷる」といった質感のオノマトペがたくさん登場します。

### 『パンダおやこたいそう』〈乳児〉

作:いりやま さとし 出版:講談社 2017 年

「おやこたいそうはじめるよ。」たけのこ、さくらんぼ、はなび…かわいいパンダのおやこがいろんなたいそうをして大変身。なかよく楽しそうなおやこと一緒に、元気いっぱい体を動かしたくなるおはなしです。「パンダたいそうシリーズ」の一冊。

### 『オニのサラリーマン』〈幼児〉

文:富安 陽子 絵:大島 妙子 出版:福音館書店 2015 年

赤鬼のオニガワラ・ケンは、地獄カンパニーのサラリーマンです。毎日お弁当を持って、満員バスに揺られて出勤します。真っ赤な血の池地獄の監視中に、ちょっと居眠りしていたら…。「オニのサラリーマンシリーズ」の最初の一冊です。

### 『オレ、カエルやめるや』〈幼児〉

文:デヴ・ペティ 絵:マイク・ボルト 訳:小林 賢太郎
出版:マイクロマガジン社 2017 年

カエルであることがいやなカエルは、ネコやウサギみたいにかわいくてふさふさしたものになりたいと、お父さんに話をしています。それを聞いたオオカミは「いいことをおしえてあげましょう」と言って…。親子の陽気な会話で繰り広げられるユーモア絵本です。

## 『しろくまのパンツ』〈幼児〉

作:tupera tupera　出版:ブロンズ新社　2012 年

パンツをなくし、困っているしろくまさん。ねずみさんと一緒にパンツを探しに行きますが…。しましまのパンツにかわいい花柄のパンツ、へんてこりんな水玉のパンツなど、いろんなパンツが登場します。穴のあいたしかけが楽しい絵本です。

## 『しんごうきピコリ』〈幼児〉

作・絵:ザ・キャビンカンパニー　出版:あかね書房　2017 年

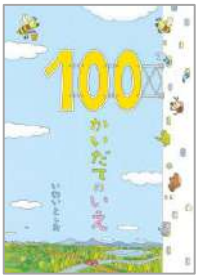
パトカーがしんごうきのおはなしをしています。しんごうきの色が青に変わったら「すすんでもよし」、それじゃあピンクは？いつもとちがうめずらしい色が加わったら、車はどうするといいでしょう。予測不能に「ピコリ！」と色を変えるしんごうきにわくわくする絵本です。

## 『パンどろぼう』〈幼児〉

作:柴田 ケイコ　出版:KADOKAWA　2020 年

パンどろぼうは、おいしいパンを探し求める大どろぼう。ある日、「せかいいちおいしい」とかかれたパン屋を見つけます。お店に忍び込み、ねらったパンを見事盗み出すと、大きなお口でパクッ！果たしてそのお味は…。そしてパンどろぼうの正体とは？

## 『100かいだてのいえ』〈幼児〉




(作):岩井 俊雄　出版:偕成社　2008 年

トチくんは100階建ての家の一番上に住む誰かから、「あそびにきてね」と書かれた手紙をもらいました。1階から登りはじめたトチくんは、いろんな階で動物たちと出会いながら、上の階を目指します。

## その他

### 『あめだま』〈小低〉

作:ペク・ヒナ　訳:長谷川 義史　出版:ブロンズ新社　2018 年

　ひとりぼっちで遊ぶ男の子ドンドンは、不思議なあめ玉を手に入れました。あめ玉を1つ口に入れるたびに、ソファーや年老いた飼い犬、今は亡きおばあちゃんの声まで聞こえてきて…。まわりの心の声を聞くうちに、ドンドンの心に変化が訪れます。

### 『おこだでませんように』〈小低〉

作:くすのき しげのり　絵:石井 聖岳　出版:小学館　2008 年

　いつも先生やお母さんに怒られてばかりの男の子はいませんか。本当は優しくなりたいのに、先生やお母さんにも笑ってもらいたいのに…。男の子は「おこだでませんように」と七夕の日の短冊に書きました。願いが届くといいですね。

### 『ねこはるすばん』〈小低〉

作:町田 尚子　出版:ほるぷ出版　2020 年

　「にんげん、でかけていった。ねこは、るすばん」と思いきや、なぞの抜け穴から外へ飛び出してしまいます。ヒゲのむくまま、きのむくままに二足歩行でどこへやら。あなたの知らない猫の世界、少しのぞいてみませんか？親子で一緒に笑って楽しめる一冊です。

### 『ぼくがラーメンたべてるとき』〈小低〉

作・絵:長谷川 義史　出版:教育画劇　2007 年

　「ぼくがラーメンたべてるとき、となりでミケがあくびした。」ほのぼのとした雰囲気の書き出しで始まります。ぼくが平和にすごす同じ時に、牛をひく男の子、パンを売る女の子がいます。山の向こうの国では、男の子がたおれています。

## 『ウェン王子とトラ』〈小高〉

作・絵:チェン・ジャンホン　訳:平岡 敦　出版:徳間書店　2007 年

昔、猟師に子どもを殺されたトラのお母さんは人を憎み、村をおそうようになりました。トラから人々を守るためにウェン王子は一人トラへ会いに行きます。トラは王子と出会うことで母親の心を取り戻し、王子はトラの優しさを知りました。

## 『せかいでいちばんつよい国』〈小高〉

作:デビッド・マッキー　訳:なかがわ ちひろ　出版:光村教育図書　2005 年

世界中を征服すれば世界中を幸せにできると、兵隊を連れ次々と征服していく大統領は、最後に残った小さな国へと出発します。その国は兵隊を持たない幸せな国でした。小さな国の文化は次第に大きな国の人々の中に広まっていき…。

## 『たくさんのドア』〈小高〉 文:アリスン・マギー　絵:ユ・テウン

訳:なかがわ ちひろ　出版:主婦の友社　2018 年復刊（2010 年初版）

たくさんのドアを開けるあなたを待っているのは、楽しいこと、驚くこと、面白いこと…。「あなたはどんなひとになりいったいどこへいくのだろう」と繰り返されるメッセージからも、子どもたちを見守る温かなまなざしが伝わってきます。人生の節目を迎えた方にもおすすめ。

## 『ママはかいぞく』〈小高〉 文:カリーヌ・シュリュグ　絵:レミ・サイヤール

訳:やまもと ともこ　出版:光文社　2020 年

ぼくのママは海賊。「カニなんてへっちゃらごう」に乗って、仲間と共に宝の島を目指して旅をしています。ママの胸には戦いでできた傷があり、航海の後は船酔いで体調を崩しがち。でも実は…。乳がんで闘病する母親とその家族を新たな視点で描きます。

# 置賜地区の図書館(室)のご案内

## 広域貸出サービス

置賜地区にお住いの方は、各館で利用者登録のお手続き後、貸出サービスがご利用いただけます。お手続きの方法は、各館へお問い合わせください。

## 相互貸借（そうごたいしゃく）サービス

お近くの図書館を窓口に他館の本を借りることができます。お探しの本がある時は、まずはお住いの地域の図書館へお問い合わせください。

| 図書館（室） | 所在地・電話番号 |
|---|---|
| 市立米沢図書館 | 米沢市中央１丁目 10-6<br>TEL:0238-26-3010 |
| 長井市立図書館 | 長井市本町１丁目 1-1<br>TEL:0238-88-2535 |
| 南陽市立図書館 | 南陽市赤湯 791 番地の１<br>TEL:0238-43-2219 |
| 高畠町立図書館 | 高畠町大字高畠 325-2<br>TEL:0238-52-4493 |
| 川西町立図書館 | 東置賜郡川西町大字上小松 1037-1<br>TEL:0238-46-3311 |
| おぐに開発総合センター図書室 | 西置賜郡小国町岩井沢 704<br>TEL:0238-62-2141 |
| 白鷹町立図書館 | 西置賜郡白鷹町大字荒砥甲 833<br>TEL:0238-87-0217 |
| 飯豊町町民総合センター図書室 | 西置賜郡飯豊町大字椿 3622 番地<br>TEL:0238-72-3111 |

『おすすめ絵本～おきたまセレクション・ベスト版～』
編集・発行：置賜地区公共図書館（室）連絡協議会
イラスト：うめつゆい
2026 年 2 月発行